

2022年3月6日（日）受難節第1主日

銀座教会 主日礼拝（家庭礼拝）

礼拝招詞 「主の慈しみに生きる人はすべて、主を愛せよ。主は信仰ある人を守り
傲慢な者には厳しく報いられる。雄々しくあれ、心を強くせよ
主を待ち望む人はすべて。」 詩編31編24～25節

主の祈り

交読詩編 詩編31編8～11節

慈しみをいただいて、わたしは喜び躍ります。
あなたはわたしの苦しみを御覧になり
わたしの魂の悩みを知ってくださいました。
わたしを敵の手に渡すことなく
わたしの足を広い所に立たせてくださいました。
主よ、憐れんでください わたしは苦しんでいます。
目も、魂も、はらわたも 苦悩のゆえに衰えていきます。
命は嘆きのうちに 年月は呻きのうちに尽きていきます。
罪のゆえに力はうせ 骨は衰えていきます。

使徒信条

讚美歌 133番 めぐみにかがやき あいにかおる

聖書 マルコによる福音書14章32～42節

32 一同がゲツセマネという所に来ると、イエスは弟子たちに、「わたしが祈っている間、ここに座っていなさい」と言われた。33 そして、ペトロ、ヤコブ、ヨハネを伴われたが、イエスはひどく恐れてもだえ始め、34 彼らに言われた。「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、目を覚ましていなさい。」35 少し進んで行って地面にひれ伏し、できることなら、この苦しみの時が自分から過ぎ去るようにと祈り、36 こう言われた。「アッパ、父よ、あなたは何でもおできになります。この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしが願うことではなく、御心に適うことが行われますように。」37 それから、戻って御覧になると、弟子たちは眠っていたので、ペトロに言われた。「シモン、眠っているのか。わずか一時も目を覚ましていられなかったのか。38 誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。心は燃えても、肉体は弱い。」39 更に、向こうへ行つて、同じ言葉で祈られた。40 再び戻って御覧になると、弟子たちは眠っていた。ひどく眠かったのである。彼らは、イエスにどう言えばよいのか、分からなかった。41 イエスは三度目に戻って来て言われた。「あなたがたはまだ眠っている。休んでいる。もうこれでいい。時が来た。人の子は罪人たちの手に引き渡される。42 立て、行こう。見よ、わたしを裏切る者が来た。」

牧会祈祷

天の父なる神さま。キリストの苦しみを覚える受難節を迎えました。私たちに礼拝に招いてくださり感謝いたします。御言葉に導かれて、なぜ、主イエスが十字架上で死ななければならなかったのか、十字架への道を辿ります。人間の罪深さを誰よりもあなたがご存じであることを思います。私たちの罪の深さを教えてください。

ウクライナの苦しみを思います。私たちの傲慢を打ち砕いてください。神を愛し、隣人を愛する恵みに気付かせてください。病の内にある方々、施設におられる方々を顧み、お守りください。世界の平和を願い祈ります。対立から和解への道をお与えください。キリストの御名によって祈ります。アーメン

説教 「御心に適うことが行われますように」

牧師 高橋 潤

3月2日（水）は、灰の水曜日、この日より受難節（四旬節、レント）に入りました。本日より、教会の典礼色が緑から紫へ変わりました。紫色は、悔い改めの色です。全てのキリスト者が神の御前に立ち、悔い改め、主を仰ぎ、罪の赦しを願う姿勢を整えて歩みます。

本日与えられた聖書の箇所は、主イエスが弟子達とともに過越の食事として、最後の晩餐を行ったあと席を立ち、賛美の歌をうたってオリーブ山に出かけ、主イエスがゲツセマネの祈りをささげたことが記されています。十字架に架かる直前、主イエスが神に祈った言葉が伝えられています。受難節は、第一に私たちの悲しみを思うのではなく、主イエスの苦しみ、悲しみに心を向けなければなりません。私たちのことではなく、主イエス・キリストがどれだけ悲しまれたか、主イエスの悲しみと苦しみをしっかりと受け止めなければ、受難節を過ごす意味を失うこととなります。私たちは、主イエスの悲しみについて、聖書から聞き取りたいと思います。

オリーブ山の麓、ゲツセマネという場所があります。オリーブ油を絞る場所でした。主イエスは、このゲツセマネをご自身の祈りの場としていました。このゲツセマネという場所は、旧約聖書サムエル記下15章に記されているように、ダビデ王が家臣に裏切られ、危険にさらされ、泣きながら裸足で坂道を登り、祈りをささげた場所でした。すなわち、ゲツセマネはダビデ王の涙と祈りの場であり、そこを主イエスがご自身の祈りの場に選ばれたということです。ルカによる福音書ではこの涙と苦しみの場所が復活の主イエスが再臨の約束をして昇天する、希望の場所になりました。

主イエスが弟子たちに裏切られ、死の杯を受け入れる使命を与えられ「わたしは死ぬばかりに悲しい」と父なる神に祈った場所には歴史的に弟子や家臣の裏切りを思い出す場所なのです。

主イエスはゲツセマネの祈りに際して、12弟子たちの中からペトロ、ヤコブ、ヨハネの3人を連れて行きました。主イエスはこの3人の弟子たちに「わたしが祈っている間、ここに座っていなさい」と言われます。祈りを中断した主イエスが弟子たちのところに戻ります。「弟子たちは眠って」いました。

37節以下「シモン、眠っているのか。わずか一時も目を覚ましていられなかったのか。38 誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。心は燃えても、肉体は弱い。」39 更に、向こうへ行って、同じ言葉で祈られた。40 再び戻って御覧になると、弟子たちは眠っていた。ひどく眠ったのである。彼らは、イエスにどう言えばよいのか、分からなかった。41 イエスは三度目に戻って来て言われた。「あなたがたはまだ眠っている。休んでいる。もうこれでいい。時が来た。人の子は罪人たちの手に引

き渡される。」

ゲツセマネで祈る主イエスは、弟子たちが目覚めて共に祈り、祈祷会のように祈りによってつながることを求めています。主イエスがどんな祈りをしたのかという前に、私たちは主イエスが祈りによって結ばれたいとお考えであったことをしっかりと受けとめなければならないのです。主イエスは3人の弟子たちを連れて行き、祈りを中断してまで三度も弟子たちの所に戻られました。主イエスは弟子たちと場所は少し離れていても共に祈ることを大切に、こだわられているのです。主イエスはひとりで祈れば良いと考えなかったのです。弟子たちは何をしても良いと考えていないのです。主イエスが祈る時、弟子たちにも共に祈ることを求めているのです。このことは、とても大切な事ではないでしょうか。主イエスが祈る時、裏切る弟子たちであっても必要としてくださった。主イエスが祈る間、目を覚ましていられなかった弟子たちの姿に私たちは彼らを批判するのではなく、私たち自身の弱さを重ねて読むことが求められているのです。私たちの弱さにもかかわらず、主イエスが最も大切な祈りの場へ、私たちを同伴し、一緒に祈ることを求めているのです。

主イエスは祈りにおいてもすでに弟子たちに裏切られていました。にもかかわらず、主イエスは裏切る弟子たちを断罪したり、見捨てたりすることはありません。主イエスは「もうこれでいい。時が来た。」といて十字架への道を前進しました。

主イエスは、弟子たちの弱さをよく知っていたということです。主イエスに選ばれた3人の弟子たちは、自分自身の弱さ惨めさを経験し学びました。主イエスの前に二度と顔向けできないほど恥ずかしい経験を聖書に記すことによって、繰り返し思い出すこととなりました。しかし、この最も惨めな経験が教会を建て上げる大切な力に変えられていきます。この御言葉によって、私たちがキリストの弟子とされていることを確認することが出来るからです。

主イエスの祈りの場に身を置くことの意味は、私たちの弱さを知ることと共に、主イエスの悲しみを最も近くで経験することとなりました。弟子たちの弱さ惨めさが、教会を建て上げる力なるとともに、もう一つ大切なことがあります。それは、祈りにおいて悲しみ、もだえ苦しむ主イエスを信仰によって見ること、知ることです。聖書が私たちに伝えていることは、神に祈る主イエスが悲しみ、苦しんでいる姿です。このお姿を私たちがしっかりと受け止める時、教会を建て上げる力に変えられるのです。

銀座教会がキリストの教会として立っているのは、主イエスのゲツセマネの祈りに支えられ、この祈りを忘れないためです。教会は、あの3人の弟子たちによって示されているのです。あ那时的主イエスの悲しみを目撃したことが教会にとって私たちにとって決定的に大切な経験なのです。

神の御子イエス・キリストは、何を苦しまれ、何を悲しまれたのでしょうか。

「地面にひれ伏し、できることなら、この苦しみの時が自分から過ぎ去るようにと祈り、36 こう言われた。「アッパ、父よ、あなたは何でもおできになります。この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしが願うことではなく、御心に適うことが行われますように。」

キリストの苦しみと悲しみは、殉教者の苦しみと同じでしょうか。主イエスの死とキリスト教史上、信仰迫害の犠牲となった殉教者の死との違いはどこにあるのでしょうか。ともすると、この苦しみの時が過ぎ去るように祈る主イエスのお姿より、殉教者の死に立ち向かう勇敢な姿の方が立派に思えてしまうことがあるかもしれません。しかし、殉教者の苦しみは、神のため、信仰のため、キリストのための苦しみです。対して、主イエスの死は、良いことのための死ではなく、罪人に代わって死ぬということです。罪人の罪の深さを知る「苦しみの時」を主イエス・キリストが苦しんでくださったことを示しているのです。私たちの罪を苦しんでおられるのです。ある牧師の説教の言葉を用いるならば、「徹底的に最後の一滴までもなめ尽くすのでなければ、罪人に代わって死ぬということにならない」。人間の罪のすべてを引き受けて悲しみ、苦しんでくださったのです。苦しみや悲しみ抜きに祈りであってはならないのです。

キリストだけが経験した苦しみと悲しみがここにあるのです。そのキリストの苦しむお姿を目撃し、証言し続けるのが教会です。

「杯」は、旧約聖書では神の御手の中にあります。この杯は、裁きの比喻として用いられています。エレミヤ25：15「それゆえ、イスラエルの神、主はわたしにこう言われる。「わたしの手から怒りの酒の杯を取り、わたしがあなたを遣わすすべての国々にそれを飲ませよ。」」詩編16：5「主はわたしに与えられた分、わたしの杯。主はわたしの運命を支える方。」「杯」が「運命」の意味として用いられています。

主イエスが祈った「杯」は、罪人の罪を引き受ける「死の運命」を意味し、死の運命としての杯を飲むことさえ、神の御心であれば従うという主イエスの決意が祈られています。神に命を委ねて、御心を求める祈りがゲツセマネの祈りです。

弟子たちの弱さを知っている主イエスは、「あなたがたはまだ眠っている。休んでいる。もうこれでいい。時が来た。人の子は罪人たちの手に引き渡される。42 立て、行こう。見よ、わたしを裏切る者が来た。」罪人の罪をすべて苦しまれ、悲しまれた主イエスが、私たちに「立て、行こう。わたしを裏切る者が来た」と語られました。主イエスは、眠りこけている私たちを救い主の戦いに行こうと呼びかけてくださっているのです。受難節の期間、主イエスの御苦しみ、悲しみを忘れることなく、主イエスの呼びかけに応じて、救い主の戦いに同伴することを感謝して、受難節を歩みましょう。祈りましょう。

天の父なる神さま。あなたの憐れみにより、私たちの罪を苦しまれた主イエスの御苦しみを感謝いたします。苦しまれる主イエスのお姿を胸に刻み、信仰生活をお導きください。キリストの御名によって祈ります。アーメン

讚美歌 285番 主よみ手もて ひかせたまえ

献金

頌栄 544番

祝禱 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。主が御顔を向けてあなたを照らしあなたに恵みを与えられるように 主が御顔をあなたに向けてあなたに平安を賜うように。主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン